

科学研究費助成事業（基盤研究（S））研究進捗評価

課題番号	26220503	研究期間	平成26(2014)年度 ～平成30(2018)年度
研究課題名	グローバル経済におけるリスクの 経済分析～国際経済学の視点から ～	研究代表者 (所属・職) <small>(平成31年3月現在)</small>	石川 城太 (一橋大学・大学院経 済学研究科・教授)

【平成29(2017)年度 研究進捗評価結果】

評価	評価基準	
	A+	当初目標を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
○	A	当初目標に向けて順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
	A-	当初目標に向けて概ね順調に研究が進展しており、一定の成果が見込まれるが、一部に遅れ等が認められるため、今後努力が必要である
	B	当初目標に対して研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
	C	当初目標より研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である

(意見等)

本研究は、(1) 国際金融市場に関わるリスク、(2) グローバルな環境問題とリスク、(3) 国際的生産ネットワークに伴うリスク、(4) 大規模災害リスクの4つの課題について、リスクへの対処と国際間の利害対立の解決を目的とする研究である。4つの課題それぞれについて、多くの新たな成果を国際的なジャーナルに掲載しているほか、新聞などのメディアにも積極的に発表しており、研究は順調に進展している。一方、課題間で進捗状況にばらつきがあり、課題1、2の実証研究などは一層の進展が望まれる。今後は、これまで別個に扱われてきた4つの課題に関する研究をまとめることに注力し、期待どおりの成果が上がることを期待する。

【令和元(2019)年度 検証結果】

検証結果	当初目標に対し、期待どおりの成果があった。
A	4つの課題すべてについて、研究成果を収めた多数の論文が国際的学術誌に掲載された。研究進捗評価が行われた平成29年度以降にも多くの論文が出版されている点も特筆すべきである。特に金融システムの不完全性とバブルの関係を解明したこと、そして研究進捗評価時に指摘があった実証研究においても、大規模災害によるクレンジング仮説と創造的破壊仮説を実証的に示したことなどは、貴重な研究成果であると評価する。